

令和7年度 夏期企画展

高野山麓 山里のしごと

高野山周辺地域のくらし

2025
7/12^土 → 9/7^日

高野山は、弘仁7年(816)に弘法大師・空海が嵯峨天皇から寺地として下賜されたことによって開かれた真言宗の一大拠点にして、寺院が建ち並ぶ宗教都市です。江戸時代に記された『紀伊国名所図会』には高野山の宗教活動や僧侶の生活を支えるために様々な職人や商人たちが山上に店を構えていたことが描かれており、いわゆる門前町を形成していたことがわかります。

一方で寺院を中心とした聖地であり、宗教都市でもあった高野山は、農産物や木材などが生産できないことから、山上にくらす人々を養うための自給が非常に困難な土地でした。このような山上のくらしを支えてきたのが高野山周辺に位置する山麓の集落です。これらの集落では、山間地域での生活用具のほか、高野山に供給するためのモノ作りに用いられた道具が今も残されています。

本企画展では、今まで扱われることが少なかった高野山周辺の集落に息づいてきたしごとや生活、信仰に関する民俗文化財を中心に紹介します。

第1章 高野山・歴史と民俗

明治時代の高野山は、明治政府による^{しんぶつぶん り せいさく}神仏分離政策や山内の大火災などの影響により、再編成を余儀なくされ、大きな転換期を迎えます。さらに明治5年（1872）に^{にょにんきんせい}女人禁制がと解かれ、多くの参詣者にひらかれることとなりました。

加えて大正14年（1925）には南海鉄道が^{こうやした}高野下駅（^{く ど やまちょうし い で}九度山町 椎出）まで開通しました。昭和4年（1929）には^{ごくらくばし}極楽橋駅まで延び、翌昭和5年（1930）にはケーブルカーが開業し、高野山駅まで全線開通すると、従来の参詣道は利用機会は減ったものの、鉄道を利用した参詣者によりさらに高野山は^{にぎ}賑わいました。



増補高野山独案内 年不詳 館蔵

江戸時代の後期のものとみられます。^{にんぎょ}人魚のミイラで知られる橋本市^{かむろ}字^{にんとくじ}文路の仁徳寺から発行された絵図。



郷土玩具「高野の導き犬」 年不詳 館蔵

弘法大師を高野山に導いた^{かり ぼ}狩場明神の化身である白と黒の犬の張子。明治40年（1907）12月から山内の^{さんない}商店で販売されました。



高野山細図（一部） 年不詳 館蔵

三島総本店が発行した高野山の案内図。右下には取り扱っている高野豆腐や位牌、人形などの土産物が描かれています。

第2章 高野山麓・山里のしごと

高野山周辺の集落は標高が高くて気温が低い上に平地が限られていることから農作物や果樹栽培には厳しい制約がありました。しかし、周辺地域の集落では、そのような条件下でも位牌や杓子や炭、コウゾやコウヤマキをはじめとした集落ごとに特徴のある様々な山の産物を生産してきました。

高野山麓の集落では、とくに立地的な関係から生産したものは高野山へ出荷する機会も多かったとみられ、野菜やシバを売りに行くことも多かったといえます。また位牌などは高野山を経由して各地へ販売されることもありました。



位牌製作用具 館蔵

伊都郡高野町杖ヶ藪では、古くから高野山内の寺院に供給する位牌が製作されてきました。

江戸時代に完成した『紀伊続風土記』には、「高野山の位牌を製する故なり、日牌月牌に用ふる所の粗品より彫物なとしたる精巧の物も作り出し生業」とするとあり、日常使いから高級なものまで生産されていたと記しています。

凍豆腐製造用具 個人蔵

橋本市郷土資料館寄託

和歌山県指定有形民俗文化財

凍豆腐は、豆腐を凍結・熟成・乾燥させたもので、冬の厳しい寒さのなか高野山で製造されはじめたとされます。高野山寺領以外の和泉山脈の葛城峯でも凍豆腐が生産されました。紀州藩に属する伊都郡伏原・吉原・田原・出塔・山田の各村では、紀州藩の許可を得て、農閑期である冬期に凍豆腐を製造しました。後に事業を拡大し、「葛城峯氷豆腐仲間」を組織し、凍豆腐の一大生産地となりました。



第3章 高野山麓・山里のいのり

江戸時代まで高野山の寺領であった村々では近年まで「^{ぞうじのぼり}雑事登」と呼ばれる収穫した農作物を高野山に収める^{しゅうぞく}習俗が残っていました。この習俗の主体となった集団には、各村で組織された弘法大師を信仰する「^{だいしこう}大師講」もありました。高野山麓の集落ではこのような^{しんこうてきこう}信仰的講がたくさん営まれてきました。

また、かつらぎ町の^{はなぞのやな}花園梁瀬や^{あまの}天野には、高野山との関係を強くうかがうことができる^{みんぞくげいのう}民俗芸能も豊富に残されています。



^{ぞうじかご}雑事籠 年不詳 中嶋大師講蔵

高野山寺領であった高野山周辺の村々では、^{ねんぎ}年貢のほかにも様々な税を納めていました。明治時代を迎え、高野山への^{のうぜい}納税義務がなくなった後もその名残として野菜などを高野山に納める^{おぼんぞうじ}御番雑事を行う村や講がありました。中嶋大師講では、^{なかじまだいしこう}講員による雑事登が近年まで毎月行われていたといえます。「御番」に当たった人物が野菜と^{せん}賽銭を集めて講員の家を^{まわ}廻りました。

^{おやがね}親鉦 文政2年(1819)

^{こがね}子鉦 延宝6年(1678)～

延命寺蔵

かつらぎ町指定有形民俗文化財

和歌山県指定無形民俗文化財「^{あまの}天野の^{ろくさいねんぶつ}六斎念仏」で打たれる^{かね}鉦。高野山麓一帯には、鉦を打ちながら「^{なむあみだぶつ}南無阿弥陀仏」の^{しょうみょう}称名を調べに掛けて繰り返す六斎念仏が古くから伝えられ、^{ひがん}彼岸や^{ぼん}盆などの^{とな}際に唱えられてきました。そのなかでも天野の六斎念仏は高野山麓を代表するもので、現在まで4曲が伝わっています。



発行 和歌山県立紀伊風土記の丘

〒640-8301 和歌山市岩橋 1411 TEL : 073-471-6123 FAX : 073-471-6120

E-mail : kofun@kiifudoki.wakayama-c.ed.jp

発行日 令和7年7月12日